

令和2年度 全校朝会 校長講話 1130 「人権週間に因んで～いじめブレーキ～」

まずは、1，2年生、5，6年生の皆さんにお伝えします。

21日の学習発表に向けて、皆さんが練習に真剣に取り組んできた様子を見てきました。仕上がった素晴らしい演技や合唱をまだおうちの方々に見ていただけていないことを残念に思っています。新型コロナウイルスの感染状況を観ながら、お披露目の仕方を考えているところですので、もう少し待っていてください。

さて、明日から12月です。そして、12月4日からは日本全国一斉に、「人権週間」が始まります。いつも以上に、“こことちゃんとまもるくん”とともに教室に貼られている目標、「自分もみんなも大切に」を意識して行動する一週間です。今朝は、「人権週間」にあわせて、港区にある全ての小学校の校長先生が、全校朝会で「人権」に関する話をしています。

今までも、私は、いじめの矢やさかなクンの例をあげ、「許されるいじめはないこと」について話をしてきました。今日は、御田小学校で、見聞きしたことを例にあげて、話をします。私は、みんなが生き生きと活動している体育の授業を観ることが好きで、校長室の窓からよく眺めています。この前は、6年生がリレーの授業を行っていました。走る速さは人それぞれですが、皆、精一杯走っています。自分のチームを応援する「がんばれ～」「がんばれ～」の声が絶え間なく聞こえてきます。アンカーが次々とゴールをし、少し遅れて最後のチームがゴールしました。するとゴールと同時に、学級全員、他のチームの子からも拍手がわきました。なんと素敵なお光景だろうと思いました。

もう一つ、これもリレーの授業のときの出来事です。何年も前の話になりますが、担任の先生から聞いた話です。Aさんのチームは1位になれませんでした。Aさんのチームには走ることが苦手なBさんがいました。Aさんは、1位になれなかったことが悔しかったのか「Bのせいで負けた」とみんなに聞えるような声で言っていたそうです。Bさんは、一所懸命走っても、人より早く走れないことを自分でもわかっています。Aさんの言葉が聞こえてきて、Bさんはとても悲しい顔をしていたそうです。Aさんのように、負けて悔しいという気持ちが起こることは、ありえることです。しかし、その心の声を、相手にストレートにぶつける行動は、決して恰好のよい行動とは言えないと思います。その言葉でBさんが傷ついたら、これはれっきとした「いじめ」です。

でも、担任の先生が私に伝えたかったことは、このAさんのことではなく、同じチームのCさんが言った言葉でした。Cさんは、負けたことをBさんのせいにしたAさんに向かって何と言ったか…。「Bさんの分も、自分たちがもっと早く走ればいいでしょ。」という言葉だったそうです。この前向きな発言が嬉しくて、担任の先生が報告してくれたのです。Aさんはこの後、何も言えなかったそうです。人には、得意なこと、苦手なことは必ずあります。それをせめても仕方ありません。Aさんのような行動をとっている人を見かけたら、みなさんはどうしますか。今回は、このCさんの一言が、いじめの拡散にブレーキをかけたと言っていいでしょう。もしCさんが、「そうだ、そうだ」とAさんの言葉に、のっていたら、さらにいじめは、広がっていったことでしょう。いじめの芽に気付いたら、「それは言い過ぎだよ。」とか「そのくらいにしておきなよ。」とブレーキをかけることができる子が増えてくれれば、そのうち、いじめている子は、自分がしていることは恰好のよくないことだとわかってくるはずです。

ここで、担任の先生に人権週間のポスターを黒板に貼っていただきます。今年の人権週間のキャッチコピーは、『「誰か」のことじゃない。』です。「いじめブレーキ」を正しく使い、安心して安全な学級をつくっていくのは、学級の「誰か」のことじゃなく、「自分」なのです。このブレーキが壊れてしまうと、いじめは暴走します。そうすると、いじめの矢が「誰か」ではなく、「自分」に向かってくるかもしれません。自分たちの学級のブレーキは壊れていないか、「人権週間」の間に、点検をしてみてください。